

第11回 冬期合宿講習会報告書



実行委員長 須藤朝代
副実行委員長 真鍋励次郎
司会 庄子昇・真鍋励次郎

平成31年1月13、14日に、第11回冬期合宿講習会を開催致しました。会場は京都嵯峨嵐山にあります“ホテルビナリオ嵯峨嵐山”です。京都市は狭い都市ですが、年を追うごとに観光客が増加しています。ホテルは軒並み値上げをし、その上、休日料金を加算してきますので、講習会の運営が難しくなっています。ですがホテル側の配慮と募集人数の増加で、何とか黒字運営を保っています。

宿泊環境は申し訳ないほど過密状態で過酷ですが、有り難い事に参加者は募集人数を越し、キャンセル待ちが出るほどの盛況ぶりです。お部屋に対しての苦情も、アンケートからは出てきていません。この場を借りて御礼申し上げます。

今回の講師は、愛知県の荻谷賢治先生です。ご自身は薬系漢方家でありながら、氣功医術師と名乗っていらっしゃいます。そして薬局経営のかたわら荻谷塾を主催され、多くの方の救い主となっていていらっしゃいます。そのような関係で、荻谷先生がお目当てで参加なさった方が多いと感じました。漢方医薬学の究極の治療は、漢方薬を投与するだけではなく患者様の陰気を吸い上げ、医療者の陽気を注入し、“氣”の入れ替えをする事で元気になっ

て頂く事と考えていますが、それほどの医療者になるのには長い道のりが必要となります。日本各地からご参加下さった先生方は、まずはご自身の健康の為に真剣に学習していらっしゃいました。荻谷先生は、漢方薬は高貴な料理の味付けのようなもので重きを置かず、日常生活の中で自然界から天と地のエネルギーを頂き、それを体に取り込み治療になさっていらっしゃるご様子です。自然破壊が進み、生薬が枯渇している現在では、漢方薬なしに治療効果を上げられるのも未来に向けての1つの方向性かもしれません。荻谷先生の治療を受けられてお元気になられた2人の患者様方もご登壇して下さいました。今は、お2人とも指導的なお立場で、過去のご自身達のように不調を訴えられる方々の良き指導者となられ、活動なさっていらっしゃいます。

2日間にわたる長丁場でしたが、あっという間に終了致しました。参加者は大方が調剤薬局にお勤めの先生方ですが、将来の夢に向けて真剣に聴いていらしたのが印象的でした。

テーマ： 『漢方医薬学の実践』

日時： 平成31年 1月 13, 14日（日、月 連休） 1泊2日

場所： “ホテルビナリオ嵯峨嵐山”（京都市右京区嵯峨天龍寺広道町3-4）

講師： 中央漢方薬局 荻谷 賢治 先生

* 漢方薬生薬認定薬剤師制度（必須研修 6単位）

漢方医薬学を志しますと、まず“傷寒論”を紐解きます。そして“金匱要略”と進み、江戸時代に活躍なさった名医の著作集へと目が移ります。しかし、読み下し、暗記するだけでは、医療にはなりません。2000年昔より出来上がった漢方処方箋は、現代になっても、多くは追加されてはいません。平成の食文化、自然環境の変化の中で、工夫無くして大昔の薬が、効果的に力を発揮するとは考えられません。ご著名な漢方家は、皆様それぞれ独自の工夫をなさり、鍵と鍵穴を合わせ“方証一致”にもっていき、治療効果を上げています。

今回の荻谷賢治先生は、“気功”を取り入れ、漢方治療の補足となさっていらっしゃいます。巷には、立派なご講演をなさる割に、健康的でなく、お手本にならない講師をお見かけしますが、この点では、荻谷先生はご自身も健康的で、溢れるエネルギーで病んだ患者様方の救い主になられていらっしゃいます。

我々医療者は、実践あるのみです。冬期合宿講習会では、メインテーマに“漢方医薬学の実践”と掲げて参りました。薬局には、薬系漢方家ならではの治療のノウハウがあります。それを学ばれる事により“かかりつけ薬局”としての立場も構築できます。

プログラム

1日目

10:00～	受付開始
10:30～10:40	日本漢方交流会会長 木村孟淳 挨拶
10:40～12:00	* 『漢方医薬学の歴史 Part II 』
12:00～13:00	昼 食
13:00～15:00	『漢方医薬学の基礎』
15:00～15:30	休 憩
15:30～17:00	『相談カードの取り方と証の基礎と活かし方』
18:00～	夕 食
20:00～	希望者補習－脈証の実習、漢方医薬学全体の質疑応答

2日

9:30～12:00	『治療の実際』
12:00～13:00	昼 食
13:00～15:45	『症例検討』
	①「ストレスからくる気鬱病状の改善」 ○原〇〇子 様
	②「皮膚病の改善」 ○谷〇子 様

* 木村孟淳先生

第 11 回冬期合宿に参加して

個人会員 山下康子

第 11 回冬期合宿は、成人の日の 1 月 13 日から 1 泊 2 日で、京都の観光名所のひとつである嵯峨嵐山の駅横のホテルビナリオで開催されました。この合宿は、毎年 2 日間にわたって臨床経験豊富な薬系漢方家の講師の先生が、一人で基礎から臨床まで話して下さる上に、実際に治療された患者様にお越し頂いてお話しまでできる貴重なものです。さらに夜間の補講の時間には脈の取り方の実践もでき、その後の懇親会では、須藤先生が差し入れて下さる美味しいお酒をのみながら、ざっくばらんに先生方とお話しできたり、志を同じくする仲間とも語り合える、他には類をみないとても充実したものです。長年多くの患者様を治療しておられる先生方は、それぞれご自分のやり方で治していられるので、治療のアプローチというのは一つではないことも再認識できます。今年は、治療に気功を採り入れられている刈谷賢治先生が担当されるということで、予め送っていただいたテキストをみながらワクワクした思いで参加させていただきました。

刈谷先生は、ときにはユーモアを交えながら、ご自分が漢方薬局を始められたきっかけ、漢方薬のすばらしい効果に驚いたことから話し始められ、それ以降漢方を学んで患者さんを治療していく上での熱い思いを語ってくださいました。病人というのは「氣」が病んでいるので、単に今訴えている症状を取るだけではなく、「癒す」事が必要であること。そして、「癒す」ためには患者様の話を一生懸命にきいて、本人が気づきを得た生き方になるように導いていくことが肝要であること。また、先生は食養生も指導され、漢方薬の服用の他に呼吸法や体操、ツボ押しなどもとりいれて治療をなされています。その中で、患者様との信頼関係を築かれて、「氣」即ち「いのちのエネルギー」を快復させておられるのだと感じました。ときには患者様に氣を送って差し上げたところ、ご自分の体調が大きく崩れたこともおありになるとのことでした。

今回、お話しをしてくださった患者さまは、次々と増えていく仕事のストレスの中で気鬱になり、原因不明の目眩、吐き気、貧血、冷や汗などで体調をくずされた方でした。頑張りすぎる現代人によくあるパターンの不調の発現だと思えます。身体を休めることすらどうしたらよいのか自分でわからない状態だったそうですが、漢方薬で身体の不調を和らげ、気功を受けていくうちに、抱えていた「不安」が「安心」に変わったとのことでした。刈谷先生との信頼関係が築かれ、ご自身の学びの中で気づきを得られたものと思われました。

今回の合宿での多くの学びを得て、私自身、薬局に来られる患者様に何をしてさしあげられるかということ、もう一度考えてみました。まだまだ経験の浅い駆け出しですが、まずは一生懸命に患者様のお話を聴き、食養生を中心として生活習慣の中で正せるところがあればそれをお伝えし、不調を和らげる漢方薬をお示しして、少しでも不安を軽減して帰っていただきたいと思っています。

今年も本当に有意義なお話しがきけて感謝しております。来年も是非参加させて頂きたいです！！

(補講のあとの懇親会でおいしいお酒を飲み過ぎたことを反省し、来年は少し慎ましくしようと思っている次第です・・)